

令和6年度 授業づくり研修会

令和6年9月13日赤磐市立山陽西小学校「社会科」

森下 憲 指導教諭 社会科6年生「幕府の政治と人々の暮らし」

キーワード

「考えの視覚化」「予習を生かす」「学びを委ねる」



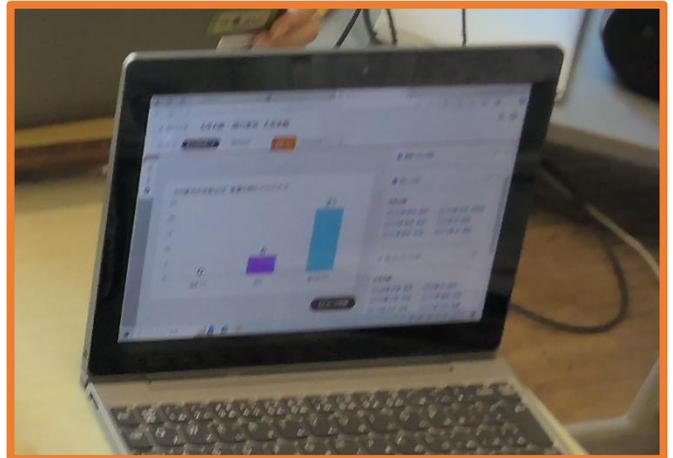
子どもたちが主体的に取り組み、学びを深めていく学習とするために「予習」と「考えの視覚化」「学びを委ねる」に重点をおいた授業でした。

本時に学ぶ内容について、教科書や資料集の大切なところに線を引いたり、タブレットにまとめたりと、子どもが自分に合った方法で予習を行っていました。

授業では、予習をもとにして、授業の開始と同時に課題に対する考えを伝え合っている姿が見られました。予習の状況は子どもによって差があるものの、友達との考えの交流を通して学び合う姿も見られました。

授業のねらいに迫る場面でICTの「投票機能」を活用しました。いくつかの選択肢を示し、「自分はどうか考えるか」を問うことでタブレット上で「考えの視覚化」がされます。

子どもたちは、自分と違う意見の考えに対して「どうしてだろう？」と疑問を抱くと同時に、「自分の考えを聞いてほしい」「伝えたい」という思いをもち、次々と考えをつなげて発表することができました。誰がどんな考えをもっているのか見える化することが、自分と比較し「聞きたい」「伝えたい」という主体的な姿につながっていました。



協議では、次のような意見が出されました。

①「予習」について

予習は、児童によって差が大きくなってしまいうり組みです。子どもがゲーム感覚で楽しみながら学習に取り組む環境を構成することが大切だという意見が出されました。今回も事前に歴史人物カルタに親しむなど、子どもを歴史好きにする工夫がなされていました。

②「考えに見える化」する工夫について

ICTを用いて考えに見える化することにより、他者の意見を自分の意見と比較しながら興味をもって聞くことができ、全員参加の授業を可能にしたという意見がだされました。

③「振り返りの充実」について

振り返りの時間確保や方法（他者参照）を工夫することで、子ども達の学びや学習のプロセス（予習の効果や友達と学びあう効果など）を価値づけ、自ら学ぶことの喜びや、学びの実感を確認することができ、そのことが新たな学びに向かう基盤となのではないかという意見が出されました。

山陽小学校の奥西指導教諭の提案授業をうけ、「子どもに委ねる学び」に挑戦した授業でした。市内の先生方が互いの授業を参観し、刺激を受けながら語り合い学び合う前向きな姿は、まさに主体的で対話的な学びそのものでした。

先生方が学び続ける姿が、子どもたちに届き、先生方の学びが子どもたちの笑顔につながると思います。